

## 2008 年度 GCOE 玉原自主セミナー 開催報告

アドバイザー

児玉大樹 (特任助教)

逆井卓也 (特任助教、現東工大)

日程: 2008 年 9 月 1 日(月)から 9 月 5 日(金)まで

会場: 東京大学玉原国際セミナーハウス

プログラム:	午前	午後
9/1		プログラム作成
9/2	講演	講演
9/3	講演	周辺散策
9/4	講演	講演
9/5	報告書作成	

9/2

9:30 渡辺 The representation of deformed Virasoro algebra.

10:30 名古屋 モノドロミー保存変形の量子化

11:20 孫 Confluent KZ eq.

15:30 岩尾 箱玉系の保存量と toropical curves

16:30 川上 Fuchs 型方程式の accessory parameter

9/3

9:30 服部 特殊なホロノミー群を持つ幾何構造

10:20 坂本 非整数階拡散方程式に対する逆問題

11:20 三角 パーコレーションクラスター上のランダムウォーク

9/4

9:30 中村 2-dimensional knot theory

10:20 野沢 Geometry of Riemann foliations

11:15 久野 実 2 次元の幾何学

15:30 原 岩澤理論を巡って

16:20 廣惠 一般 Whittaker 模型



2008 年度 GCOE 玉原自主セミナーは、特任研究員 2 名(名古屋、三角)と博士課程学生 11 名、アドバイザーとして特任助教 2 名が参加して開催された。

グローバル COE 事業「数学新展開の研究教育拠点」の目標として、代数・幾何・解析の各分野に渡ってすばらしい研究業績を残した小平邦彦氏(本学数学教室卒業・フィールズ賞受賞者)のように、数学の幅広い分野で活躍できる人材を育成するというコンセプトが挙げられる。

ともすれば若手研究者、特に大学院生は、自分の専門分野にかかりっきりで、他分野に目を向ける機会や余裕が無いものである。本セミナーでは参加者各自が自分の研究内容を他分野の研究者にも分かりやすいように発表し、その後の質疑応答において、極めて活発な議論が交わされた。

講演においては、各自、自分の分野の研究はしっかり行っているという印象だった。一方で、やや専門的になりすぎて他分野の研究者には分かりにくくなる場面もあったが、こういった他分野の研究者との交流を何度も積み重ねることでそのような講演技術も向上していくと思われる。

2008 年度 GCOE 玉原自主セミナーでは、研究交流の面でも、講演技術の向上の面でも、大きな収穫があった。2009 年度以降の GCOE 玉原自主セミナーでもよりいっそう大きな収穫を期待したい。

